

事務事業チェックシート

事務事業No 141 事業名 自然環境保全事業（メダカ等水生生物生息水路）

[事業基本情報]

分野別目標	4	自然環境と都市基盤が調和した快適なまち
政策	4	自然環境・資源循環型社会の形成
施策	2	自然環境の保全と創造
基本方針	1	生物多様性の保全

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費
	その他		
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務
	その他		
会計・予算区分	会計		一般会計
	款		衛生費
	項		環境保全費
	目		環境保全政策費
	大事業		環境保全政策事業
事項		自然環境保全事業	

事業種別	継続	主な事務事業	○
事業期間	～		
事業実施の根拠法令			
関連個別計画	和歌山市環境基本計画		
担当課・担当課長 (Tel)	環境政策課	東山 雅彦(435-1114)	
関連課			

「3つの約束・44の約束」との関連性

3つの約束	産業を元気に	まちを元気に	人を元気に	非該当
		○		
44の約束				○

1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的（「誰・何」をどういう状態にする」ための事業か）	事業内容				
	希少な野生生物の生息地を保全地域として指定することにより、希少動植物の保護を図る。	保全区域（水路・干潟等）を指定し、保全を図る。				
実施内容		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		指定区域2か所の保全	指定区域2か所の保全	指定区域2か所の保全 新たな保全区域の指定	指定区域2か所の保全 新たな保全区域の指定	指定区域2か所の保全 新たな保全区域の指定

2 事業コスト

		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		
		当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算	計画	決算	
事業費等 千円	事業費	250	250	258	250	250		250		250		
	伸び率 (%)	-	-	3.2%		-3.1%		0.0%		0.0%		
	人件費	常勤職員		110	1,084	1,053	1,841		1,841		1,841	
		非常勤職員										
		小計		110	1,084	1,053	1,841		1,841		1,841	
	国庫支出金											
	県支出金											
	市債											
	その他											
	一般財源（税等）	250	250	258	250	250		250		250		
所要人数	常勤職員		0.01	0.14	0.14	0.22		0.22		0.22		
	非常勤職員											
主な予算内訳		保全水路等清掃委託料250千円										

3 目標及び実績

		指標名及び達成状況				平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
活動指標	浚渫作業日数					年度目標値	2	2	2	2	2
						実績値	2	2			
	単位	日	全体目標値	全体目標達成度	年度別達成度	100.0%	100.0%				
					年度目標値						
	単位	箇所	全体目標値	全体目標達成度	年度別達成度						
					実績値						
成果指標	希少野生生物の保全区域の指定箇所（累計）	全体目標値	全体目標達成度	年度目標値	3	3	3	3	3		
				実績値	2	2					
	単位	箇所	全体目標値	全体目標達成度	年度別達成度	66.7%	66.7%				
					年度目標値						
単位	箇所	全体目標値	全体目標達成度	年度別達成度	100.0%						
				実績値							

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か		市が行うべき	○	他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか		できる	○	あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している(90%以上)	○	おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実	/			
	現状維持	○			
	縮小	/			
	廃止	/			
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	継続して事業を実施することで、希少な動植物の生息地を保全することができる。
「見直し」 「改善」案	